

魅力発信！えひめ農業

令和8年7月

【お知らせ】

魅力発信！えひめ農業は、県ホームページ(※1)で、県下全地区の内容について、閲覧できます。

※1 掲載場所：ホーム＞仕事・産業＞農業＞農産園芸課＞農産物の生産振興

※2 この動向は、7月中に各普及拠点から報告のあったものを取りまとめたものです。

～愛媛県農林水産部農業振興局農産園芸課～

〒790-8570

愛媛県松山市一番町4丁目4-2

(TEL) 089-912-2558

(FAX) 089-912-2564

<http://www.pref.ehime.jp/noukei/>

目次

目次	1
7月のトピックス5選	3
世代間の交流を図るためのパネルディスカッションを開催	3
かんきつ栽培の農作業体験を通じて農業の魅力を高校生へ発信	3
高校生が最先端の農業を体感～伊予地区で先進農家との交流会を開催～	4
使われなくなった農業用資材を次世代へ！	4
猟友会員とシカ侵入経路を探索	5
えひめ農業	6
■東予地方局地域農業育成室	6
東予担い手ステップアップ研修会を開講	6
ぶどうと柑橘の栽培・経営管理を学ぶ現地研修会を開催	6
講習会でさといも種芋の加温技術を説明	7
水稻直播栽培の技術確立に向けた先進地との情報交換を実施	7
幻の白芋「七福いも」の早期採苗、生産実証ほで掘り取り調査を実施	8
大玉生産に向けた柿「太天」の摘果講習会を実施	8
酷暑の中「ひめの凜」の穂肥講習会を開催	9
■東予地方局地域農業育成室四国中央指導班	9
今後の栽培管理に向け、一日営農相談を開催	9
青年農業者が園地互評会で野菜栽培技術の向上	10
新規花木栽培者の技術向上を目指し研修会開催	10
うま茶のワークショップ 首都圏で開催	11
■東予地方局産地戦略推進室	11
いちごオランダ式生産技術セミナーの開催	11
■今治支局地域農業育成室	12
農業女子グループが気候変動対策を学ぶ	12
なし園での継続的な侵入防止対策を指導	12
普及指導員がデジタル営農情報システムの実際を研修	13
梅雨明け後の里芋栽培管理を講習会にて指導	13
施設せとかに遮光資材を設置して効果を検証	14
後期さといも栽培講習会で農福連携を推進	14
いちごの育苗管理巡回で炭疽病対策の徹底等を指導	15
■今治支局地域農業育成室しまなみ農業指導班	15
岩城駐在ほ場で中学生がかんきつ栽培を体験	15
かんきつ摘果講習会を開催	16
■今治支局産地戦略推進室	16
甘長とうがらしの高温対策を調査	16
今治産タカミメロンの販促イベントを実施	17
■中予地方局地域農業育成室	17

高品質安定生産を目指して「ひめの凜」中干し及び穂肥講習会を開催	17
若手女性農業者が摘果等栽培技術を学ぶ	18
青年農業者が柑橘栽培技術を学ぶ	18
興居島の若手農家等に摘果技術を講習	19
露地せとかにおける日焼け果軽減対策の実証ほを設置	19
研修生が農業経営者としての感覚を磨く	20
多目的自立走行運搬車の開発状況及び樹園地向け緑肥作物を視察	20
「中予農業応援ボランティア」を大学へ推進	21
■中予地方局地域農業育成室伊予農業指導班	21
「ひめの凜」美味しさ基準のクリアに向けた支援	21
キウイフルーツの気候変動対策に向けた遮光ネットの設置	22
JA 松山市松前町管内で初の女性農業者交流会を開催、広域連携へ始動	22
■中予地方局地域農業育成室久万高原農業指導班	23
高温条件下でも安定したピーマン栽培行うため基本技術を徹底指導！	23
■中予地方局産地戦略推進室	23
「さくらひめ」夏季自家育苗技術の導入を支援	23
そらめ産地の強化に向けて今年度の取組みを協議	24
鉢花生産に係るデータ活用勉強会の開催	24
■南予地方局地域農業育成室	25
新規就農者がかんきつ経営と栽培管理技術を学ぶ	25
一次産業女子の更なる発展のために！	25
■南予地方局地域農業育成室鬼北農業指導班	26
水稻における緑肥利用効果の実証を協議	26
花粉採取用キウイフルーツの新梢伸長抑制剤の現地試験を実施	26
■南予地方局地域農業育成室愛南農業指導班	27
「河内晩柑」でドローンによる年間体系防除を実証中	27
■南予地方局産地戦略推進室	27
再編復旧園地で「媛小春」の早期成園化に取り組む	27
■八幡浜支局地域農業育成室	28
気候変動に適応したかんきつ栽培に向けて	28
■八幡浜支局地域農業育成室大洲農業指導班	28
青年農業者が高校生と農作業を通じて交流	28
内子町の鳥獣対策をインターネットで発信	29
ぶどう園で農業用無人車の実用性を検証	29
■八幡浜支局産地戦略推進室	30
南予地域最大のさといも産地で気候変動に対応した栽培講習会を開催	30
■農産園芸課高度普及推進グループ	31
葉色スケールで「ひめの凜」の葉色診断	31
第1回作物調査研究会を開催	31
第1回花き調査研究会を開催	32

7月のトピックス5選

標 題	世代間の交流を図るためのパネルディスカッションを開催		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和8年7月22日	場所	東予地方局西条第二庁舎	
指導対象	新規就農者、青年農業者等（78人）	連携機関	西条市、新居浜市、JA 周桑、JA えひめ未来	
普及指導内容	○東予担い手ステップアップ研修会の第2回講座として、農業指導士と青年農業者計8名をパネリストとして、儲かる農業をテーマにパネルディスカッションを開催した。 ○本研修会は、本年度より新規就農者だけでなく幅広い世代の農家に参加できる形に改編し、農家間の交流も図りながら幅広い知識を学べる講座として開催している。			
結果と今後	○パネリストが、自身の経営課題や今後のビジョン等を説明した後、会場の参加者を変え、地域内での人材育成や情報共有の必要性等について議論した。 ○講座後の懇親会にも、多くの農業者が参加し世代間や個別の交流が図られた。 ○引き続き全9回の講座開設等を通じ、若手人材の育成や地域間交流の促進を進める。			



パネルディスカッション会場



農業指導士と若手農家による討議



懇親会での世代間の交流

標 題	かんきつ栽培の農作業体験を通じて農業の魅力を高校生へ発信		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和8年7月3日	場所	今治市上浦町	
指導対象	県立今治南高校園芸クリエイト科（9人）	連携機関	県立今治南高校、今治CATV（株）、JA おちいまばり	
普及指導内容	○将来の進路を考える高校3年生を対象に、農作業を学び、体験する機会を通じて農業への理解と関心を深めることを目的とした体験会を開催した。 ○本年2回目の体験会は、西日本豪雨災害の再編復旧園地で実施されているマルドリ方式栽培と気象観測・遠隔自動かん水システム等来型果樹園の概要を説明した後、生徒はラジコン草刈機を操作し、スマート農業の実態に触れた。			
結果と今後	○スマート農業に関心を寄せる生徒が多く見られ、「しんどい農業から楽しい農業になるため、スマート技術がもっと普及して欲しい」との声も聞かれた。 ○第3回は12月上旬にさといも栽培の農作業体験を予定しており、体験会の様子は今治CATVの地域情報チャンネルで放送予定となっている。 ○当室は今後も次世代の担い手確保のため、農業の魅力発信等の取組を進めていく。			



未来型のかんきつ栽培を指導



ラジコン草刈機を実際に操作



気象観測システムを学ぶ

標 題	高校生が最先端の農業を体感 ～伊予地区で先進農家との交流会を開催～		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和8年7月1日	場所	松前町西古泉地区	
指導対象	県立伊予農業高校の生徒(18人)	連携 機関	伊予地区農業改良普及事業推進協議会	
普及指導 内容	○農業の魅力発信と就農啓発を目的に、松前町内の先進農家を巡る交流会を開催した。 ○生徒らは、オージープランツの温室やドローン等のスマート農業機械を見学後、農業 者から就農経緯や経営内容の説明を受け、活発な意見交換を行った。			
結果と 今後	○生徒からはスマート農業のメリット・デメリットや、同校での白ねぎ栽培に関する具 体的な助言を求める質問が寄せられた。 ○また、講師を務めた農家が「将来、農業をしたい人」と問いかけたところ、約8割の 生徒が挙手し、関心の高さに講師が驚く場面もあった。 ○次回は、12月17日に同校において交流会を開催し、農家からの経営事例等の報告や 意見交換などを行う予定。			
  				
オージープランツ栽培の見学 ドローン等の農業機械の見学 意見交換の様子				

標 題	使われなくなった農業用資材を次世代へ！		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和7年6月1日	場所	愛南町内全域	
指導対象	愛南町内農家（愛南町土地利用型経営体62戸）	連携機関	愛南町農林課、JA えひめ南 南宇和営農センター	
普及指導内容	○当班は関係機関と連携し、離農等で不要となった農機具や倉庫などの情報を収集・整理して、就農・営農相談の場で紹介し、必要な農家へのマッチングを行っている。 ○令和8年度からは、愛南町ホームページでも情報提供を呼びかけるとともに、同情報の利用状況についても公開を始めた。			
結果と今後	○これまでの収集件数は8件とまだ少ないものの、そのうち7件が1年以内に町内での就農や経営規模の拡大を目指す経営体に活用されるなど、着実な成果が見られる。 ○今後は、農地や施設も対象に含め、内容を充実させることで町内農家の初期投資の負担・リスク軽減を図り、土地利用型経営体の確保・育成を目指す。			

愛南町

愛南町

41 農業用資材 42 農業用資材 43 農業用資材 44 農業用資材 45 農業用資材 46 農業用資材 47 農業用資材 48 農業用資材 49 農業用資材 50 農業用資材

サイト内検索 キーワードを入力してください

トップ > 農林畜産支援 > 支援一環 > その他 > 使われなくなった農機具等はありませんか？

使われなくなった農機具等はありませんか？

2026年07月01日更新

使われていない農機・農業倉庫・農業機械等を有効活用できるように、情報を集めています。

【情報提供物件】

使われなくなった中古農機具、資材（トラクター、草刈り機、コンテナなど）

使われなくなった農業倉庫

眠っていませんか？
あなたの農地・倉庫・農機具

地域資源として“次の人”へ

使われていない農地・農業倉庫・農業機械等を有効活用できるように、情報を集めています！

使われなくなった中古農機具、資材
（トラクター、草刈り機、コンテナなど）

使われなくなった農業倉庫

耕作しなくなった農地

トラクター

草刈り機

コンテナ

情報提供を呼び掛ける愛南町ホームページと情報提供パンフレット

標 題	猟友会員とシカ侵入経路を探索		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和8年7月10日	場所	八幡浜市双岩	
指導対象	猟友会双岩支部会員（2人）	連携機関	JAにしうわ	
普及指導内容	○近年、管内のニホンジカ捕獲頭数が急激に増加しており、生産者から将来におけるかんきつ産地の維持について、懸念の声が挙がっている。 ○そこで、当室ではニホンジカの侵入経路に位置すると思われる双岩地区において、西予市から八幡浜市への侵入ルートを明確にして捕獲圧を高めるため、同地区猟友会と連携して獣道の踏査を実施した。 ○この活動は5月から実施しており、設置したトレイルカメラの位置を定期的に変えながら、侵入ルートを着実に明らかにしている。			
結果と今後	○特に侵入が多いと推定される2地点では、週に数回、ニホンジカの動きがあることが判明しており、その情報をもとに同地点での捕獲に繋がった。 ○今後は調査地点を拡大し、詳細にルートを把握して捕獲圧を高めるとともに、管内の生産者と情報を共有し、地域が一体となって「シカの脅威」への意識を高め、被害の低減に努める。			



令和7年度西予市・八幡浜市のシカ捕獲頭数分布

10Km メッシュ別捕獲頭数分布



ニホンジカが出没する獣道

【トレイルカメラ】
赤外線センサーで動物を感知し、動画を撮影する屋外用カメラ

えひめ農業

標 題	東予担い手ステップアップ研修会を開講		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和8年7月7日		場所	東予地方局西条第二庁舎
指導対象	新規就農者、青年農業者等（41人）		連携機関	西条市、新居浜市、日本政策金融公庫
普及指導内容	○農業者が栽培技術や経営知識を学ぶ研修会を開講するとともに、第1回講座として、普及職員OBの農業コンサルタント等を講師に、実例を基に補助事業や融資制度の仕組み・活用のポイント、法人設立や農地転用等に伴う関係法令を解説した。 ○また、全体研修の後には相談会を開催し、個別の案件に対し講師と共に助言した。			
結果と今後	○集落営農法人の代表者からは、組織員の減少等に伴う株式化への移行手続きに関する質問があるほか、出席者からは事業承継や相続手続き等に関する相談等があった。 ○第2回講座では、ベテラン農家と若手農家の代表者をパネリストとしたパネルディスカッションの開催を予定しており、計9回の講座開催を通して、担い手の育成や農業者間の交流促進等を図る。			



ステップアップ講座開講式



各種支援制度の解説



個別相談会

標 題	ぶどうと柑橘の栽培・経営管理を学ぶ現地研修会を開催		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和8年7月28日		場所	西条市田野、氷見
指導対象	新規就農者、青年農業者等（30人）		連携機関	西条市、JA周桑、JA東予園芸
普及指導内容	○管内の農業者が、栽培技術や知識を習得する東予担い手ステップアップ研修会の第3回講座として、消費者から高い評価を受けている果樹生産者の経営事例を学ぶ研修会を開催した。 ○研修会では、ぶどうと県ブランドかんきつを栽培する農業指導士ら2人が、果実の高品質生産に向けた栽培管理や直販に伴う顧客管理等について説明した。 ○当室からは、同園地での糖酸分析結果等を基に栽培管理の特徴や、近年高温で問題となっている日焼けや裂果の軽減を図るための実証試験について説明した。			
結果と今後	○出席者からは、高温下での糖度向上に向けた栽培技術や、販路拡大の手法等について活発な質疑が行われ、農家同士の交流やつながりも深まった。 ○次回8月4日開催の第4回講座では、中予地域の先進農家・法人の視察を予定しており、今後も研修会の開催等を通じて農業者の資質向上を支援する。			
 ぶどう直販経営の説明  県ブランドかんきつ栽培技術の説明  気候変動対策試験の説明				

標 題	講習会でさといも種芋の加温技術を説明		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和8年7月2、8、9、13日	場所	JA えひめ未来新居浜経済センター、西条市内各地	
指導対象	JA えひめ未来里芋部会（16人）、JA 周桑里芋部会（62人）	連携機関	JA（えひめ未来、周桑）	
普及指導内容	○「親株直接採取増殖法」の実証ほ場において、掘り取り調査を行うとともに、種芋加温技術による生育促進効果等を講習会で説明した。 ○同増殖法は、前年の親芋を昼夜一定の高温（28℃）で加湿し種芋とする技術で、初期生育が旺盛になることが確認されている。 ○また、本年度からは、慣行栽培の種芋についても定植前に高温で加湿処理を行い、試験区を設けて生育促進、増収効果等を確認している。			
結果と今後	○親株直接採取増殖法及び種芋加温区では、4月の遅い時期の定植に関わらず草丈が220 cm、1株の芋重が1,500 kgを超えているなど、慣行栽培区に比べ大きく生育が促進されていることが確認された。 ○今後も実証結果を基に種芋加温技術による増収効果の確認と技術普及に取り組む。			



種芋加温技術の説明



親株直接採取増殖ほ場の調査



収穫調査（下：親株増殖法）

標 題	水稻直播栽培の技術確立に向けた先進地との情報交換を実施		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和8年7月14日	場所	西予市宇和、西条市内各地・新居浜市内各地	
指導対象	水稻生産者（2人）	連携機関	西予農業指導班	
普及指導内容	○水稻直播栽培の技術確立に向け、乾田直播及びドローンを利用した湛水直播の実証ほ場において、雑草の発生状況に応じた除草剤のローテーション散布や、気象条件に応じた水管理、追肥について指導を行った。 ○また、西予農業指導班の担当者と西予市内の実証ほ場において情報交換を行い、実証内容及び栽培管理について意見交換を行った。			
結果と今後	○管内の乾田直播の実証では、適切な除草管理等により旺盛な分げつを確保し、湛水直播の実証においても、適期に入水することで過乾燥による出芽不良を回避することができたことにより、十分な苗立ち数を確保することができた。 ○今後は、生育、収量、品質を継続して調査、検証するとともに、本年度の実証で明らかとなった技術課題への対策を検討し、直播栽培技術の確立と普及につなげる。			



乾田直播実証ほの穂肥作業



ドローンによる湛水直播実証状況



西予市実証ほ場での意見交換

標 題	幻の白芋「七福いも」の早期採苗、生産実証 ほで掘り取り調査を実施		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和8年7月31日	場所	新居浜市角野	
指導対象	白いも生産農家（2人）	連携 機関	新居浜市、JA えひめ未来	
普及指導 内容	○新居浜市大島で生産されている白芋「七福いも」の陸地部での安定生産技術を確立する ために設置した生産実証ほにおいて、収穫2カ月前の芋の着生や肥大、形状、糖度を 測定するため掘り取り調査を行った。 ○従来、同品種は萌芽が遅く採苗、定植が後ずれし、収量、品質が不安定であることか ら、本年度は「儲かるモデル産地育成システム確立実証事業」で導入した閉鎖型育苗 施設での種芋の加温やLED照明による早期育苗を活用し、定植を1か月早めた実証試 験を行っている。			
結果と 今後	○閉鎖型育苗を利用し4月中旬に定植した試験区では、7月時点での葉面積指数（LAI） は適正值の3.5、糖度も9度を超えており、掘り取り調査においても5月、6月定植 区よりも良好な芋の着生、肥大が確認された。 ○今後も地域特産品としてブランド化を進める新居浜市と連携しながら、白芋産地の育 成を図る。			



早期採苗実証ほの掘り取り調査



市担当者と芋の着生調査



早期採苗区での芋の着生

標 題	大玉生産に向けた柿「太天」の摘果講習会を実施		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和8年7月7日	場所	西条市田野	
指導対象	太天生産者（27人）	連携機関	JA 周桑、JA 東予園芸、田滝青果出荷組合	
普及指導内容	○管内の「太天」生産者を対象に、生産者間の技術交流および大玉果生産の推進を目的とした摘果講習会を開催した。 ○4月に実施した摘蕾講習会に引き続き、市場価値の高い大玉果を生産するための摘果すべき果実のポイント及び樹勢に応じた着果管理について説明し、実演を行った。 ○視覚的な基準として、事前に用意した葉果比別のモデル樹（15枚/果、20枚/果、25枚/果）を示し、その説明と確認の時間を設けることで、適正な着果基準の共有を図った。			
結果と今後	○参加者は、葉果比15のモデル樹に対し着果量の多さを実感、高い関心を示しており、自園の着果管理への意欲的な姿勢が窺えた。 ○今後、「太天」の大玉果生産推進に向け JA と連携し園地巡回を実施し、巡回時に着果量や樹勢を評価し、生産者に共有することで適正な着果管理の徹底を図る。			

		
栽培管理について説明	摘果の実演とモデル樹の確認	モデル樹（葉果比15）

標 題		酷暑の中「ひめの凜」の穂肥講習会を開催		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和8年7月27日～31日		場所	JA えひめ未来(西条あぐりセンター、新居浜経済センター) JA 周桑営農管理研修センター	
指導対象	JA えひめ未来、JA 周桑「ひめの凜」認定栽培者 (379人)		連携機関	JA えひめ未来、JA 周桑	
普及指導内容	○「ひめの凜」栽培者を対象に、穂肥・水管理・収穫調製の徹底を目的とした講習会を開催した。 ○「ひめの凜」の生育は、6月上旬から7月上旬の低温多雨と日照不足により生育が緩慢であったが、7月中旬以降の高温と日照増加により、出穂日は平年よりやや早い見込み。 ○また、生育診断により穂肥施用の時期と量を決めることや、斑点米カメムシの2回防除を指導した。 ○さらに、現地で穂肥診断の方法を指導した。				
結果と今後	○田植え後の低温多雨と一転し、7月中旬から高温少雨となったため、今後の生育状況と病害虫発生に注意し栽培管理を徹底する必要がある。 ○栽培者は「ひめの凜」の価格に期待しており、引き続き「プレミアムクオリティ」米の生産に向け指導を行う。				
 室内研修の状況  幼穂長と穂肥時期を説明  現地で診断方法を説明					

標 題	今後の栽培管理に向け、一日営農相談を開催		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和8年7月8日～9日	場所	JA うま各支店（土居、豊岡、川之江、三島）	
指導対象	水稻・さといも・やまのいも・果樹生産者（70人）	連携機関	JA うま	
普及指導内容	○秋以降の収穫に向け、夏期を中心とした今後の栽培管理の確認を目的に、JA うまと連携して一日営農相談を開催した。 ○今後の気象情報を提供するとともに、水稻については斑点米カメムシ類の防除のポイントや高温対策を、さといもについては疫病や軟腐病の防除対策や水管理を指導した。 ○やまのいもは芋の肥大期における適正施肥の実施と土壌水分管理、新規栽培及び面積拡大の啓発に重点を置いて説明した。 ○果樹は温州みかんと中晩柑の摘果や防除のポイントを説明した。 ○加えて、熱中症予防、トラクターの安全使用、マダニ対策について周知した。			
結果と今後	○生産者からは水稻の肥料施用時期、さといもの土壌水分計を活用した水管理、やまのいもの労力軽減に向けた取組み等について多くの質問があり、担当者が的確に回答した。 ○今後も栽培指針に基づく管理徹底を図るため、個別巡回や講習会を定期的の実施し指導を継続する。			
  左：担当者がポイントを説明 右：一日営農相談（豊岡）				

標 題	青年農業者が園地互評会で野菜栽培技術の向上		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和8年7月17日	場所	四国中央市土居町	
指導対象	野菜部会・土居町4Hクラブ会員 (3人)	連携 機関	—	
普及指導 内容	○同組織は栽培技術向上を目的に野菜の園地互評会を実施した。 ○指導班は栽培技術について助言を行い、会員からの質問に回答した。 ○園地巡回後、座学においてかん水管理及び施肥管理について重点的に説明を行った。			
結果と今後	○互評会では積極的な意見交換が行われ、各会員の園地管理の工夫や課題を共有し、技 術向上につながる改善点が明確になった。 ○今後は、共有された知見を基に栽培技術のさらなる向上を図るとともに、来年度も 互評会を継続し会員間の連携強化及び野菜品質の安定化を目指す。			
 かん水管理、施肥管理について 説明する普及指導員				

標 題	新規花木栽培者の技術向上を目指し研修会開催		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和8年7月23日	場所	四国中央市川之江町	
指導対象	花木栽培者（5人）	連携 機関	JA うま	
普及指導 内容	○夏季の高温化により花木栽培の困難さが増していることから、新規栽培者2人の知識・技術習得及び既存栽培者3人の技術向上と課題解決を図り、花木産地の発展を目的として研修会を開催した。 ○JA うま花き部会長の園地を訪問し、栽培品目や栽培管理、収穫方法等について研修した。			
結果と 今後	○参加者は、ポポラス、ヒムロスギ及びピットスプラムなど多品目を現地で確認しながら熱心に質問や議論を行い、栽培管理技術の習得及び課題の整理を行った。 ○今後は新規花木栽培者に対する栽培管理指導を行い、四国中央市における花木生産の拡大に向けた取組みを進める。			





左：熱心に質問する花木栽培者

右：ヒムロスギのダニ被害を確認

標 題	うま茶のワークショップ 首都圏で開催		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和8年7月11日～12日	場所	東京都 シン・エヒメ	
指導対象	うま茶振興協議会茶業販促グループ (2人)	連携 機関	—	
普及指導 内容	○「うま茶」の販路拡大及びPRを目的に、令和8年度「儲かるモデル産地育成システム 確立実証事業（県単）」を活用し、県外での販促活動を支援した。 ○有限会社協製茶場が東京都のシン・エヒメで緑茶・烏龍茶・紅茶の飲み比べワークシ ョップと店頭試飲販売を実施した。 ○県内産かんきつをブレンドしたオリジナル商品等を用意し、客層に応じて、茶葉の質 感、香り、味などの茶の種類や特徴を消費者に伝え、茶のイメージ向上と購買を促した。			
結果と 今後	○ワークショップ及び試飲を通じて、うま茶の魅力を発信し、購買につながった。 ○今後も県外での販促活動の伴走支援を行い、生産者の顔が見える商品販売を支援する とともに、消費者が茶に興味を持ち、茶を飲む習慣が定着するよう取り組む。			





左：シン・エヒメで店頭試飲販売

右：うま茶の飲み比べワークシ
ョップで茶産地のPR

標 題	いちごオランダ式生産技術セミナーの開催		機関名	東予地方局産地戦略推進室
年月日	令和8年7月3日	場所	西条市玉津、西条市明理川 西条市丹原町池田	
指導対象	いちご生産者（15人）	連携 機関	（株）デルフィージャパン、管内 JA、農産園芸課、県内普及機関	
普及指導 内容	○オランダの環境制御技術の導入により大幅な単収向上を目指す「いちご新技術導入促進事業」（局予算、令和7年度～）の第1回セミナーを開催した。 ○現地研修では、生産者の育苗ほ場3か所において、（株）デルフィージャパンの講師から育苗期の施肥方法、苗の葉数管理、かん水管理等について実践的な指導を受けた。 ○室内研修では、いちごの環境制御技術の導入にあたり「栽培計画と戦略」、「定植後の管理」について理論的な解説を受けた。			
結果と 今後	○参加した生産者からは、「昨年の実践をもとに高度な質問ができ、技術の定着が図れている」との評価が得られ、技術理解の進展が確認できた。 ○今後、いちごの生育ステージに合わせて同セミナーを4回開催するほか、「現地フォローアップ研修会」を開催し、専門家と普及指導員が協働で、新技術の普及・定着を進める。			





左：現地研修会の様子

右：室内研修の様子

標 題	農業女子グループが気候変動対策を学ぶ		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和8年7月17日	場所	今治市波方町	
指導対象	ROOTS（6人）	連携機関	JA おちいまばり、大信産業（株）	
普及指導内容	○本年4月に結成された今治陸地部の農業女子グループ「ROOTS」は、個々の資質向上や所得向上、地域での仲間づくり等を目的とした勉強会を定期的に開催している。 ○今回は「気候変動対策」をテーマに、高温対策資材を扱うメーカーを招き、当室と連携して対策技術や露地・施設栽培で必要なかん水設備等の実際を指導した。			
結果と今後	○参加者からは「有効な高温対策を知ることができ、経営に活かしたい」「ほ場に適したかん水設備が理解でき、設置を検討したい」等の前向きな意見が聞かれた。 ○9月下旬には東予全体の農業女子を対象とした研修会を計画しており、当室はタイムリーかつ継続した指導を実施し、地域農業のリーダーとして育成していく。			



高温対策について学ぶ

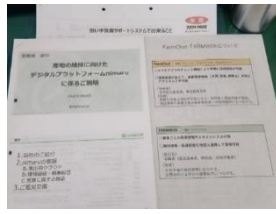


外気導入機材を紹介



かん水設備設置に向けた指導

標 題	なし園での継続的な侵入防止対策を指導		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和8年7月7日、16日	場所	今治市古谷	
指導対象	なし生産者（1人）	連携機関	岡山理科大学獣医学部	
普及指導内容	○サル侵入が危惧され、電気柵の修繕を行ったナシ園において、再度、約200果の落下と食害が確認されたことから、現地調査及び侵入対策を実施した。 ○カメラの映像から、サルは電気柵を避け、せん定が不十分であったシキミの木を利用して侵入していることが確認できた。 ○併せて、入口付近の地際部に隙間があるため、侵入防止への環境整備を指導した。			
結果と今後	○生産者は侵入箇所や整備不十分な箇所の指摘を踏まえ、速やかに環境整備を実施した結果、対策を講じた箇所からの侵入防止が確認できた。 ○今後は、センサーカメラを活用したサルの行動把握を継続するとともに、防護柵の維持管理と周辺環境の点検を徹底するよう支援し、サルの侵入防止及び園地のエサ場化の防止に向けた防護体制づくりを進めていく。			
  左：シキミを経由したサルの侵入 右：入口付近の環境整備指導				

標 題	普及指導員がデジタル営農情報システムの実 際を研修		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和8年7月16日		場所	河野美術館会議室（今治市旭町）
指導対象	－		連携 機関	（株）kikitori、JA 全農えひめ、 農産園芸課
普及指導 内容	○気候変動等の課題に迅速に対応し、生産者等への情報伝達にも活用できるデジタル営農情報システムの普及が進んでいることを踏まえ、県内で導入されている当該システムの担当者を招き、その特徴や連携のあり方等を検討する研修会を開催した。 ○当日は、県が推進する「ファームチャット・ボックス」のほか、JA おちいまばり等が導入している「nimaruJA」、JA 全農えひめが営農指導員向けに導入している「NE サポートシステム」の3システムについて、機能や特徴を比較・整理した。			
結果と 今後	○比較検討や意見交換を通じて、各システムの強みが認識できたほか、システム間のデータ連携は制限されるが、運用の工夫により対応は可能であること等を確認した。 ○当室は、これらシステムの円滑な導入を支援し、知見を積み重ねるとともに、生産者等へのタイムリーな情報提供のため、関係機関と連携しながら具体的な活用方策を検討していく。			
  左：活発な意見交換 右：各システムの説明資料				

標 題	梅雨明け後の里芋栽培管理を講習会にて指導		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和8年7月28日他	場所	農業生産法人（株）ファーム咲創 JA おちいまばり乃万支店	
指導対象	越智今治農協里芋部会（28人）	連携 機関	JA おちいまばり、農林水産研究所	
普及指導 内容	○管内では梅雨明け後の高温による葉焼けが散見されることを踏まえ、かん水方法と効果、排水対策を重点的に指導した他、追肥の必要性について説明した。 ○また、これまでで最も早く疫病の発生が確認されたことから、発生条件、収量への影響並びに治療薬の応急散布等について指導した。			
結果と 今後	○かん水作業や追肥について質問があったため、後日対象圃場にて土壌や葉色等の状態を計測し、そのデータを基に個別指導を行った。 ○今後とも関係機関と連携し、気象や圃場の条件に適した管理の指導により収量の増加を目指す。			



JA 部会へ集団指導



現地の生育状況を確認



畝の土壌状態を測定

標 題	施設せとかに遮光資材を設置して効果を検証		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和 8 年 7 月 29 日	場所	今治市菊間町	
指導対象	施設せとか生産者（1 人）	連携機関	JA おちいまばり、農産園芸課	
普及指導内容	○気候変動適応産地づくり総合対策事業を活用し、高温対策の実証ほを設置している施設せとか（6 棟：4 a）に遮光資材を設置した。 ○当日は、生産者・関係機関の計 9 人が 2 時間程度で設置を終え、後日、1 棟（1 a）に別資材を設置する予定。			
結果と今後	○今後、定期的に果実温度の計測、日焼け果の発生数を確認し、遮光資材の効果検証を行うこととしている。 ○現場では、近年の気候変動による夏季の日焼け果の発生が問題となっており、当室は検証結果を踏まえ、関係機関と連携し今後の栽培指導に活かしていく。			





左：遮光資材設置状況

右：被覆後のハウス内の様子

標 題	後期さといも栽培講習会で農福連携を推進		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和 8 年 7 月 28 日	場所	農業生産法人（株）ファーム咲創、JA おちいまばり乃万支店	
指導対象	農業者（26 人）	連携 機関	JA おちいまばり、農林水産研究所	
普及指導 内容	○越智今治里芋部会の栽培講習会を活用し、障がい者雇用の理解促進研修を実施した。 ○講習会では、当室がさといもの後期のかん水、追肥及び防除指導を行った後、今治管内のさといもの収穫作業における農福連携事例等について紹介した。			
結果と 今後	○講習を受けた農業者のうち 1 人が農福連携に取り組む意向を示したため、今後は、個別相談で対応し、農福連携の実現に向け取り組むこととしている。			
 農福連携事例紹介				

標 題	いちごの育苗管理巡回で炭疽病対策の徹底等を指導		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和8年7月9日、15日、16日	場所	今治市朝倉、菊間町 ほか	
指導対象	JA おちいまばりいちご部会員 (14人)	連携 機関	JA おちいまばり	
普及指導 内容	○いちごの健全苗の確保を支援するため、JA と連携した育苗巡回を実施した。 ○梅雨明け以降、罹病株が顕在化する難防除病害「炭疽病」を中心に、その他の病害虫についても目視により確認を行い、今後の対応について指導した。			
結果と 今後	○約半数の育苗ほ場で炭疽病の罹病株を確認。 ○今年は梅雨時期の降水量が多く、激しい降雨も頻発したことから、雨よけ育苗であっても炭疽病の発生が確認されており、一部のほ場ではハダニ類の発生も認められた。 ○炭疽病の罹病株は早急な除去を指導するとともに、生産者に対して炭疽病の見分け方を説明し、除去後の農薬散布について指導した。 ○本ぼへの定植に向け、病害虫の発生抑制と必要な苗数の確保を図るため、当室は育苗管理に関する指導を継続していく。			
 生産者に炭疽病の見分け方を説明				

標 題	岩城駐在ほ場で中学生がかんきつ栽培を体験		機関名	今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班
年月日	令和 8 年 7 月 1 日	場所	しまなみ農業指導班岩城駐在	
指導対象	上島町立岩城中学校（1 年生 16 人、 2 年生 2 人）、上島町立弓削中学校 （1 年生 24 人）、上島町立魚島中 学 校（1 年生 4 人）	連携 機関	上島町	
普及指導 内容	○上島町の中学 1、2 年生を対象に、岩城島特産のレモン栽培の実際と、温州みかんの 摘果作業を指導した。			
結果と 今後	○生徒は、適期作業の重要性や夏季の管理作業が生育に大きな影響を与えることなどを 学んだ。 ○引き続き、12 月に温州みかんの収穫作業を体験する予定となっている。 ○岩城駐在では、農業が将来の職業候補として選択肢の一つとなるよう、積極的に魅力 発信や実地指導を進めていく。			





左：かんきつについて学ぶ

右：施設レモン見学

標 題	かんきつ摘果講習会を開催		機関名	今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班
年月日	令和8年7月2日	場所	しまなみ農業指導班岩城駐在	
指導対象	かんきつ生産者（21人）	連携機関	JA おちいまばり	
普及指導内容	○今年のかんきつ類の作柄に応じた摘果の考え方と、品種ごとの摘果方法について解説した後、駐在所内の主要かんきつ類を用いて、粗摘果の程度や注意点について、技術指導を行った。			
結果と今後	○摘果だけでなく、かんきつ栽培全般における質疑応答がなされるなど、生産者は熱心に受講していた。 ○岩城駐在では、実証園地において、上島町全域で「かんきつ主要作業の講習会」を開催しており、生産者への栽培技術指導を含め、効率的な普及活動を進めていく。			
 摘果技術の実演指導				

標 題	甘長とうがらしの高温対策を調査		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和8年7月17日～	場所	今治市玉川	
指導対象	甘長とうがらし生産者（1人）	連携機関	JA おちいまばり	
普及指導内容	○近年、甘長とうがらしにおいて、高温時期の障害果発生が問題となっており、その対策の検討に向けて、2種類の遮光・遮熱資材を用いた比較調査を開始した。 ○併せて、JA おちいまばり管内で導入を推進している環境センサーを活用し、生産者個人のスマートフォンによるハウス内環境の把握と栽培管理の実践に向けた指導を行った。			
結果と今後	○今後、資材の違いによる気温、地温の違いや収穫量、果実品質等を調査し、効果を検証する。 ○得られたハウス内の環境データを活用し、生産者が適切な栽培管理を自ら判断して実践できるよう、継続して指導を行う。			





左：遮光・遮熱資材を被覆したハウス

右：ハウス内に設置の環境センサー

標 題	今治産タカミメロンの販促イベントを実施		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和8年7月5日	場所	JA 直売所「さいさいきて屋」	
指導対象	—	連携機関	JA おちいまばり	
普及指導内容	○今治産タカミメロンの地域特産としての定着を図るため、昨年度に引き続き JA 直売所「さいさいきて屋」で販促イベントを実施した。 ○当日は、青果と、さいさいカフェが製造したスイーツ「バリメロン(メロンのパバロア)」等を用意し、対面での試食・販売を通じて今治産タカミメロンの説明をするなど認知度向上を図った。			
結果と今後	○多くの来場者が試食や購入を行い、「とても甘くて美味しい」「いつ頃まで販売しているのか」などの声もあり盛況であった。 ○今後も、JA と連携し、タカミメロンの産地化に向けた取り組みを推進するとともに、生産者の所得向上につながるよう指導・支援を行う。			
 来場者にメロンの食べ頃等を説明				

標 題	高品質安定生産を目指して「ひめの凜」中干し及び穂肥講習会を開催		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和8年6月25日、26日、7月1日、28日、29日、8月5日	場所	JA えひめ中央（アグリセンター北条、荏原支所、東部営農支援センター）	
指導対象	「ひめの凜」認定栽培者（105人）	連携機関	JA えひめ中央	
普及指導内容	○「ひめの凜」の収量・品質の向上を図るため、講習会を開催した。 ○今回は、過剰分けつを抑制する適期中干しや、充実した子実を確保する穂肥診断に基づく肥培管理手法を指導した。			
結果と今後	○参加者からは、中干し開始時期とその期間のほか、土壌条件や生育状況に応じた基肥・穂肥の施肥量など、多くの質問が寄せられた。 ○今後は、ほ場での穂肥診断を実施し、適正施肥による高品質安定生産を図る。			
  株の見本を用い中干しや穂肥の適期を説明				

標 題	若手女性農業者が摘果等栽培技術を学ぶ		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和8年7月14日	場所	松山市興居島	
指導対象	若手女性農業者組織「しとらす」会員（12人）	連携機関	—	
普及指導内容	○柑橘主要品種の摘果方法について、実践を交えた指導を行った。 ○また、6月に当室でテフグラスをは種した柑橘園地で、緑肥作物による雑草対策や土壌改良の効果を説明した。 ○室内では、近年の気候変動を踏まえた摘果や夏季管理等のポイント及び留意事項を説明した。			
結果と今後	○参加者は、着果量に応じた摘果や夏秋梢の処理等を自ら行い、技術を向上させたほか、緑肥活用にも関心を示していた。 ○同組織の栽培技術及び情報発信力を向上したいとの意向を受け、SNS講習会や先進地視察研修を開催予定。			





左：摘果作業の実践指導

右：緑肥作物活用について説明

標 題	青年農業者が柑橘栽培技術を学ぶ		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和8年7月15日	場所	松山市長師	
指導対象	中島青年農業者協議会会員（14人）	連携機関	—	
普及指導内容	○会員相互の柑橘栽培技術向上を目指し、研修会を開催。 ○室内研修では、昨年度に当室で実施した「愛媛果試第48号」の日焼けや、す上がり対策の現地実証結果を報告。 ○現地研修では、「せとか」「愛媛果試第48号」「同28号施設」「甘平」の会員園地を巡回し、園主から摘果などの栽培のポイントを説明の後、意見交換を行った。			
結果と今後	○当協議会は、10代から40代まで幅広い年齢層で構成されており、特に若い会員は先輩の栽培技術を多く学ぶことができ、有意義な研修となった。 ○今後は、8月に経営研修、9月に他地域協議会との交流、10月に視察研修を予定しており、引続き支援していく。			
  栽培技術について意見交換する会員				

標 題	興居島の若手農家等に摘果技術を講習		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和8年7月16日	場所	松山市泊町	
指導対象	かんきつ新規就農及び若手農家（10人）	連携機関	JA（松山市、松山市果樹部会）	
普及指導内容	○若手農家等の技術習得を図るため、摘果講習並びに意見交換を行った。 ○温州みかんと中晩柑類の摘果方法の違いや、中晩柑類の品種別摘果方法を説明した後、「伊予柑」「愛媛果試第28号」の園地で実演した。 ○併せて、病害虫や雑草対策など、農家が普段感じている疑問点について意見交換を行い、栽培技術について理解を深めた。			
結果と今後	○参加者からは、「有葉果と直花果の違いについて理解でき、どの果実を残すべきかが分かった」との感想が寄せられた。 ○今後も継続的に講習会を開催し、栽培技術の向上を図るとともに、営農に関する疑問や課題を共有・相談できる意見交換の場を設ける予定。			





左：かんきつの摘果方法を説明

右：伊予柑の摘果を実演

標 題	露地せとかにおける日焼け果軽減対策の実証ほを設置		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和8年7月21日	場所	松山市堀江町等	
指導対象	かんきつ農家（4人）	連携機関	JA（えひめ中央、松山市）	
普及指導内容	○近年問題となっているかんきつ類の日焼け果軽減を目的に、露地せとかの園地で、遮熱ネットと果実袋の実証ほを設置した。 ○遮熱ネットは遮光率20%のポリエチレン製ネットを選定し、既に効果が確認されている防風ネットとの比較試験を実施。 ○併せて、伸縮性のある小型の果実袋で被覆し、無被覆と比較する。			
結果と今後	○今後は、日焼け果の発生程度や果実の肥大・品質について調査するとともに、労働性や費用対効果についても検証する。			





左：遮熱ネット（白）と防風ネット（青）

右：小型の伸縮性果実袋（試作品）による被覆

標 題	研修生が農業経営者としての感覚を磨く		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和8年7月22日	場所	JA えひめ中央東部営農支援センター	
指導対象	JA えひめ中央研修センター研修生 (32人)	連携 機関	JA えひめ中央	
普及指導 内容	○松山市並びに東温市の実習ほ場研修生を招集した今年度最初の合同座学研修会で、当 室から農業経営について講義した。 ○売上だけに目を奪われることなく、利益を意識した経営の実践に向け、原価計算のほ か、作業日誌や簿記記帳を活用した経営改善、リスク管理の重要性や支援制度等につ いて説明した。			
結果と 今後	○補助金や資金の活用を検討している研修生からは、就農までの具体的な準備期間や手 続きなどについて相談があった。 ○引き続き、管内5研修施設と情報共有し、座学研修を体系化することで、効率的でよ り濃密な研修を行い、就農希望者の着実な就農と早期経営安定化につなげる。			
 研修会の様子				

標 題	多目的自立走行運搬車の開発状況及び樹園地向け緑肥作物を視察		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和8年7月23日、24日	場所	千葉県柏市、千葉市	
指導対象	松山市、砥部町の基盤整備園実証農家（22戸）	連携機関	－	
普及指導内容	○多目的自立走行型運搬台車の開発と、基盤整備園での緑肥作物の活用について情報収集するため、輝翠（株）（柏市）と雪印種苗（株）（千葉市）を視察した。 ○開発中の運搬台車「Adam」は、リモコンと手動による操作が可能で、「追従」「自立」の走行モードが選択でき、ユニット装着で自動草刈り機になるなど汎用性が高い。 ○緑肥作物は、マメ科の「ヘアリーベッチ」やイネ科のライムギ「R-007」を春播きすると夏場に地上部が枯れ上がり、土面マルチ効果と土壌保全が期待できる。			
結果と今後	○今後、同運搬台車の改良及び導入に向けて、関係者と連携しながら検討を進めるとともに、ライムギなど有望な草種の実証ほを設置し、土壌改良の効果を検証する。			





左：「Adam」のリモコン操作

右：イネ科のライムギ「R-007」

標 題		「中予農業応援ボランティア」を大学へ推進		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和8年7月23日、24日、27日		場所	愛媛大学、松山大学、東雲女子（短期）大学、聖カタリナ大学	
指導対象	－		連携機関	株式会社 VOCE	
普及指導内容	○管内農業者の労働力確保を目的に、昨年度モデル的に実施した「中予農業応援ボランティア」について、本年度は作目及び地域を拡大して実施することとしている。 ○同ボランティアの認知度向上及び参加者募集に向けて、松山市内の大学へ訪問し、ボランティア実施体制や参加手順について説明の上、学生等への周知を依頼した。				
結果と今後	○各大学からは「農業のインターンシップとしても活用できる」「ボランティア表彰の一つの活動に位置付けたい」といった意見があり、学内ネット掲示板等を通じて全学生や教職員に周知してもらえたこととなった。 ○今後は、さらなるボランティア参加を促すため、複数企業への推進を行うとともに、JA えひめ中央と連携して農家向け説明会を行うなど、一層の利用促進につなげる。				
【中予農業応援ボランティア】 中予地方局・JA えひめ中央・ （株）まちペイが連携し、令和7年度に構築した有償ボランティアの取組。 マッチングやボランティアへのポイント付与にスマートフォンアプリを活用した効率的な仕組みとしている。  大学へのボランティア説明					

標 題	「ひめの凜」美味しさ基準のクリアに向けた支援		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和8年7月2日、3日	場所	JA（えひめ中央伊予中央支所、全農えひめ農業技術センター）、松前町徳丸	
指導対象	ひめの凜認定栽培者（88人）	連携機関	JA（松山市、えひめ中央）、農林水産研究所	
普及指導内容	○中干し講習会を開催し、室内では「美味しさ基準」の達成と一等比率の向上に向け、茎数が増えやすい品種特性を踏まえた適期の中干しと、乾かしすぎない水管理の徹底を指導した。 ○現地ほ場では中干し開始の目安である茎数の数え方を説明し、基本技術を共有した。			
結果と今後	○栽培者からは「ほ場周辺からの見え方と、実際に抜き取った稲株の違いを具体的に理解できた」との声が多く上がった。 ○今後は、穂肥診断や幼穂形成期以降の水管理、収穫適期の見極めなど、高品質安定生産に向けた技術支援を継続していく。			





左：室内講習会（JA えひめ中央伊予中央支所）

右：現地ほ場で茎数の数え方を指導

標 題	キウイフルーツの気候変動対策に向けた遮光ネットの設置		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和 8 年 7 月 16 日	場所	伊予市中山地区	
指導対象	実証農家（1 人）	連携機関	JA えひめ中央、農産園芸課	
普及指導内容	○当班では、夏季高温によるキウイフルーツの日焼け被害と正品率低下を防ぐため、今年度から「気候変動適応産地づくり総合対策事業」を活用したアプローチを開始。 ○具体的には、生産者の作業負担を軽減するため、既存の防風ネット固定用器具を流用して遮光ネットを棚に直接固定する「省力的日焼け低減技術」を考案し、同技術の確立に向けて実証ほを設置した。			
結果と今後	○今後は、果実の日焼け程度のほか、品質や樹体への影響などのデータを収集し、効果を検証する。 ○さらに、蓄積したデータを JA と共有し、講習会での周知等を通じて技術普及を図り、産地の収益安定を後押しする。			





左：遮光ネット被覆状況

右：ネット固定用器具

標 題	JA 松山市松前町管内で初の女性農業者交流会を開催、広域連携へ始動		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和 8 年 7 月 30 日	場所	JA 松山市岡田支所	
指導対象	JA 松山市松前町管内の女性農業者 (8 人)	連携 機関	JA 松山市	
普及指導 内容	○当班は女性農業者の経営参画へ向け、松前町管内初の交流会をサポートした。 ○多様な参加者が本音で話せるようワークショップ形式を取り入れ、自己評価や課題抽出しやすいよう助言した。 ○各々の「やりたいこと」の整理を促し、多角的な視点から解決へのヒントが得られるよう対話を円滑に促進した。			
結果と 今後	○若手から出た「育児や家事で休息が取れない」「酷暑で体力維持が困難」とのワークライフバランスの課題に対し、ベテラン層から作業補完や家事支援などの助け合いの提案を引き出し、有意義な交流会となった。 ○次回（8 月下旬）は、集いの愛称決定や課題解決の情報共有の場とし、近隣の松山市や久万高原町への案内拡大による広域ネットワーク化も模索する。			





左：ワークショップで課題を共有

右：意見や質問を交し理解を深め合う

標 題	高温条件下でも安定したピーマン栽培行うため基本技術を徹底指導！		機関名	中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和8年7月28日	場所	久万高原町管内	
指導対象	ピーマン新規栽培及び収穫量の少ない農家（20戸）	連携機関	JA 松山市	
普及指導内容	○指導班では、約1～2週間間隔で個別巡回を実施している。 ○今回は、梅雨明け以降の高温により、収量・品質の低下が懸念されるため、肥培管理や定期的なかん水及び病害虫防除を呼びかけた。 ○具体的には、取り残しがないよう適期収穫（2L・L・M果）の励行や、少量多かん水及びカルシウム資材の葉面散布の実施などを指導。			
結果と今後	○一部のほ場では、収穫遅れによる草勢低下（着果負担増）や、品質への影響（カルシウム欠乏症、日焼果）がみられているため、高温対策などの基本技術指導を徹底し、部会平均単収7t/10aを目指す。			





左：関係機関との現地巡回

右：かん水装置の設置状況

標 題	「さくらひめ」夏季自家育苗技術の導入を支援		機関名	中予地方局産地戦略推進室
年月日	令和8年6月24日、7月10日	場所	東温市拝志地区	
指導対象	「さくらひめ」鉢物生産者（1人）	連携機関	－	
普及指導内容	○「さくらひめ」の種苗コストの低減と需要期出荷による生産者の収益力向上を目的に、夏季自家育苗技術の普及に取り組んでいる。 ○鉢物の年内出荷を目指し、新たに夏季自家育苗に取り組む生産者に対し、は種後のスポットクーラーを活用した育苗管理方法を指導した。			
結果と今後	○6月27日に播種し、スポットクーラーで冷蔵処理した育苗トレイでは、7月10日（播種後13日目）に約1cmの発芽が確認された。 ○その後、日中は二重遮光ハウス内で管理し、夜間はスポットクーラーによる夜冷処理を継続しており、8月下旬頃に10.5cmポットに定植する予定である。 ○今後も、夏季自家育苗技術による良質な苗の育成と適切な栽培管理を継続的に指導し、年内出荷による収益向上を図る。			
  左：スポットクーラー設置状況 右：播種後19日目の生育状況				

標 題	そらまめ産地の強化に向けて今年度の取組みを協議		機関名	中予地方局産地戦略推進室
年月日	令和8年7月2日	場所	中予地方局	
指導対象	関係市町・JA 等関係機関職員（10人）	連携機関	伊予市、JA（松山市、えひめ中央、全農えひめ）、農林水産研究所	
普及指導内容	○地方局予算「そらまめ産地強化事業」により、近年問題となっているそらまめの収量低下の原因究明や単収向上に向けた技術実証等の取組みを実施している。 ○同事業に係る第1回連絡会議を開催し、令和8年産そらまめの栽培状況や今年度の栽培実証試験の取組内容等について協議した。			
結果と今後	○8年産は中段以降の収穫量が確保されず、産地全体の平均単収は0.8tとなったものの、対策技術の実証ほでは、平均単収1.4tを確保した。 ○今年度は、6か所の実証ほを9月から設置し、8年産の実証結果から有望であった「マルチの種類変更」と「株間の拡張」に加え、品種比較試験の実施を決定した。 ○引き続き関係機関と連携し、そらまめの産地強化を推進する。			
 今年度の活動内容等を協議				

標 題	鉢花生産に係るデータ活用勉強会の開催		機関名	中予地方局産地戦略推進室
年月日	令和8年7月8日	場所	伊予農業指導班	
指導対象	伊予花き研究会会員（5人）	連携機関	—	
普及指導内容	○鉢花や花壇苗の栽培ハウス内で測定した温湿度と二酸化炭素のデータを活用して、生産性を高める栽培管理方法の勉強会を開催した。 ○これは、同会員から温湿度を測定する機器は導入しているが、計測データの活用方法が分からないとの声から企画したもの。 ○今回は、データを活用して光合成を促進する初歩的な管理方法を説明した。			
結果と今後	○光合成促進には、一定の湿度が必要である旨説明すると会員からは「ハウス内を乾燥させすぎていた」「これからは湿度管理にも注意を払いたい」「データを様々な栽培管理に生かす方法を詳しく学びたい」との意見・要望が出された。 ○今後も継続して勉強会を開催し、データ活用技術の習得を支援する。			





左：勉強会で聞き入る鉢花農家

右：大型モニターを使い分かりやすく説明

標 題	新規就農者がかんきつ経営と栽培管理技術を学ぶ		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和8年7月13日	場所	吉田公民館ほか（宇和島市吉田町）	
指導対象	新規就農者等（8人）	連携機関	JA えひめ南、宇和島市	
普及指導内容	○当室は、就農8年以下の新規就農者等を対象に農業知識の習得や栽培技術の向上を目的とする「第3回ニューファーマー講座」の開催を主導した。 ○室内研修では、えひめ農業未来カレッジ（ひめカレ）がE:N BASE から配信する「エヒメアグリミートアップ講座」をオンラインで視聴し、県内3経営体における経営改善計画書の作成経緯から現在までの取組について、先進的な経営事例を学んだ。 ○現地研修では、市内の農業指導士が講師となり、経営や労働力を考慮した品種選定、品質向上の取組などの説明とともに、極早生みかんの摘果について指導を受けた。			
結果と今後	○参加者からは、新梢と摘果量のバランス等について質問があり、技術習得への意欲が伺われた。 ○本講座は年4回の開催を計画しており、次回は受講生から要望が高かった機械整備をテーマに、知識の習得を図る。			





左：先進経営事例を学ぶ参加者

右：極早生みかんの摘果に見入る参加者

標 題	一次産業女子の更なる発展のために！		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和8年7月1日	場所	道の駅 津島熱田温泉	
指導対象	一次産業女子グループ（宇和島ルリアン）、宇和島市内の女性農業者（さくらひめ会員）（7人）		連携機関	－
普及指導内容	○一次産業女子グループとして活発に活動している「宇和島ルリアン」が、六次化・民泊・個別販売など多方面に関心を持つ宇和島市内の女性農業者（さくらひめ会員）の加入を促すため、当室は交流会の企画及び運営を支援した。 ○参加者は、それぞれの農業経営や今後の展望等について紹介し意見交換を行い、「宇和島ルリアン」は、本年度の活動内容について協議した。			
結果と今後	○宇和島市内の女性農業者から、「後日は場を見学したい」「SNSでの情報発信手法を教えて欲しい」など積極的な発言があり、「宇和島ルリアン」への加入を前向きに検討していた。 ○今回の交流会を契機とし、宇和島市内の女性農業者間における一層の連携と活躍促進を目的とした「南予地域女性農業者リーダー研修会」を9月に開催する予定である。			
				
		意見交換を行う宇和島市内の女性農業者		

標 題	水稻における緑肥利用効果の実証を協議		機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班
年月日	令和8年7月29日	場所	JA えひめ南鬼北営農センター	
指導対象	鬼北早期米部会役員・生産者（10人）	連携機関	JA えひめ南、松野町、鬼北町	
普及指導内容	○4月の田植えまでにすき込むことができる緑肥（ヘアリーベッチ）の栽培は、水稻における化学肥料の低減や収量増が期待されており、当班では、昨年度、試験的に実証を行っている。 ○鬼北早期米部会役員会では、今年度、本格的な実証を進めることを決定しており、緑肥の栽培方法や水稻の生育調査、米における食味への影響を確認するため、効果の検証に必要な調査項目について指導した。			
結果と今後	○緑肥（ヘアリーベッチ）の栽培は、9月と10月播種の試験区を設けるとともに、3月にすき込み後、当班は、水稻の田植え後における生育の経過や米の食味等について調査する。 ○本実証は、資材高騰下のコスト低減効果や、代かき後に発生する河川の濁水軽減も期待されることから、当班は実証結果を速やかに検証し、地域への普及を目指す。			
				
栽培計画等を協議する参加者		ヘアリーベッチ		
【ヘアリーベッチ】 土壌に窒素を固定する緑肥として利用されるマメ科の1年草。耐寒性に優れ、春先にはほ場全面が覆われるほど急成長する。				

標 題	花粉採取用キウイフルーツの新梢伸長抑制剤の現地試験を実施		機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班
年月日	令和8年7月23日	場所	松野町吉野	
指導対象	キウイフルーツ花粉生産者（1人）	連携機関	松野町、株式会社松野町農林公社、 果樹研究センター	
普及指導内容	○樹冠拡大が進んだキウイフルーツの雄木園地では、新梢の伸長が旺盛となるため、管理作業の省力化を目的とし、新梢伸長抑制剤の活用について指導した。 ○昨年度に実施した当班内ほ場での予備試験結果から花蕾収穫量への影響が懸念されたが、省力化の有効な手段であることから、生産者と実施規模について協議した結果、現地試験として1樹に散布し、状況を把握することとなった。			
結果と今後	○生産者からは、「夏場の管理作業が少しでも楽になればよい」と効果に期待する声が聞かれた。 ○新梢の伸長状況や翌年の花蕾収穫量への影響を調査するとともに、生産者の意見を踏まえながら活用の可能性を検討し、省力化技術として確立を目指す。			
  左：伸長した新梢 右：新梢伸長抑制剤を散布する生産者				

標 題	「河内晩柑」でドローンによる年間体系防除 を実証中		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和8年7月29日	場所	愛南町緑	
指導対象	「河内晩柑」生産者（1法人）	連携 機関	愛南町、JA えひめ南	
普及指導 内容	○基幹品目である「河内晩柑」の省力化栽培を目指し、愛南町農業活性化協議会果樹部会では、ドローン防除の実証に取り組んでいる。 ○令和7年度の実証結果で黒点病防除剤については一定の効果が確認されたことから、今年度はドローンのみによる年間体系防除の実証へステップアップすることとした。 ○実証では、薬剤の液滴サイズの違いと防除効果を検証するため、感水紙を葉の表裏に設置し、薬液の付着面積率を調査した。			
結果と 今後	○調査の結果、薬液の付着面積率は、液滴が大きい場合は表面が高く、液滴が小さい場合は裏面が高いことが判明した。 ○管内では、愛南町によるドローン防除委託費用の一部補助により、ドローンによる防除面積が急増（R6:5.2ha→R7:41.5ha）している。今後は、ドローン防除園地における正品率や発病度の追跡を進め、効果的な散布方法の確立や防除暦の策定を目指す。			



左：ドローン（赤丸）による薬液散布

右：調査樹に感水紙を設置

標 題	再編復旧園地で「媛小春」の早期成園化に取り組む		機関名	南予地方局産地戦略推進室
年月日	令和8年7月14日	場所	宇和島市吉田町玉津	
指導対象	「媛小春」生産者（1人）	連携機関	農村整備課	
普及指導内容	○当室では、宇和島市玉津地区法花津工区において、令和7年3月に定植した「媛小春」（わい性台木）の早期成園化に取り組んでいる。 ○「媛小春」は樹勢の強い品種であるため、わい性台木の導入により着果が安定する一方、初期生育が緩慢であることから、BS資材を活用した生育促進効果について実証している。 ○併せて、梅雨明け以降、猛暑が続いているため、定期的にかん水するよう指導を徹底した。			
結果と今後	○再編復旧園地では2回目の夏を迎え、夏枝が伸長するなど順調に生育しており、BS資材による樹冠部の拡大効果が期待されている。 ○当室では、わい性台木の生育状況を慣行台木と比較して調査しており、結果については研修会等を通じて生産者へ周知し、新規栽培者でも安心して導入できる仕組みを構築する。			
 左：生育状況を確認 右：定期的なかん水作業				

標 題	気候変動に適応したかんきつ栽培に向けて		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和8年7月13日	場所	伊方町仁田之浜、二見	
指導対象	「甘平」「愛媛果試第48号」生産者（2人）	連携機関	JAにしうわ	
普及指導内容	○近年の気候変動による夏季の異常高温などの影響により、管内のかんきつでは裂果や日焼け等の障害が多発し、重大な問題となっている。 ○当室と JA にしうわでは、気候変動適応産地づくり総合対策事業（R8～）の一環として、「甘平」の裂果と「愛媛果試第48号」の日焼けを対象とし、それぞれの障害の軽減に向けて実証ほを設置した。 ○「甘平」では、堆肥の施用による裂果軽減効果を、「愛媛果試第48号」では遮熱シートの展張や炭酸カルシウム剤の散布による日焼け軽減効果を、それぞれ検証する。			
結果と今後	○今後、裂果率や日焼け果の発生程度、果実品質等を調査し、気候変動に対応した安定生産技術の確立と産地への普及を目指す。			
 堆肥の施用  遮熱シートの展張  炭酸カルシウム剤の散布				

標 題	青年農業者が高校生と農作業を通じて交流		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和8年7月1日	場所	内子町長田	
指導対象	大洲喜多地区青年農業者協議会員 (28人) 大洲農業高校生徒(6人)	連携 機関	大洲農業高等学校	
普及指導 内容	○大洲喜多地区青年農業者協議会では、担い手確保活動の一環として大洲農業高校生徒を対象に「農作業現地研修」を実施し、当班は講師となる会員を支援した。 ○研修では、生徒に農業の魅力や大切さを学んでもらうため、講師の会員は、キウイフルーツ栽培の基本技術や品種の特徴などを説明するとともに、品質向上に向けて苦労した経験や農業のやりがいなどについて語った。			
結果と 今後	○生徒からは、「最も大変な作業は何か」「品質向上の工夫は」「売り上げはどうか」など多くの質問があり、講師の会員から栽培技術や経営の考え方に直接触れることで、農業者や農業への理解を深めるきっかけとなった。 ○今後も現地研修などを通じ、会員が取り組む担い手確保活動を支援していく。			
  左：青年農業者が農業の魅力を語る 右：園地での現地研修				

標 題	内子町の鳥獣対策をインターネットで発信		機関名	八幡浜地方局地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和 8 年 7 月 10 日	場所	内子町平岡	
指導対象	企業組合内子ジビエ構成員（6 人）	連携 機関	農産園芸課	
普及指導 内容	○内子町の生産者は、イノシシやシカの被害や捕獲後の処理に悩まされていたが、令和 8 年 4 月にオープンした企業組合内子ジビエには、「獣肉加工品を地域の恵みとして 生まれ変わらせたい」という考えに賛同した生産者や加工業者らが集まり、捕獲から 解体、加工販売まで一貫した取組みを展開しており、課題の解決につながっている。 ○当班では同組合の取組みを広く知ってもらうために、農産園芸課と連携して「愛媛県 鳥獣対策&ジビエ料理総合ポータルサイト」への掲載を促し、認知度の向上を支援し ている。			
結果と 今後	○7 月 17 日付けで上記ポータルサイトに取組みを掲載した。 https://ehime-gibier.com/archives/category/facility ○今後も当班では、引き続き同組合の認知度向上のほか、鳥獣害対策の徹底、ジビエの 利用促進や安全安心な加工技術の提案など、総合的な支援を行う。			
 内子ジビエのメンバー（県 HP より）				

標 題	ぶどう園で農業用無人車の実用性を検証		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和8年7月16日	場所	内子町大瀬	
指導対象	ぶどう農家（1人）	連携機関	日本ディーアールシステム株式会社	
普及指導内容	○内子町のぶどう園では、動力噴霧機やスピードスプレーヤーでの農薬散布が主流であるが、傾斜地における機械の横転や狭い樹間では機械の取り回しが困難であること、農薬の暴露による健康被害のほか、夏季高温時の重労働が問題となっている。 ○そこで当班では農薬や液肥散布作業の省力化や安全性の確保等を目的とし、自動走行とコントローラーによる遠隔操作が可能な農業用無人車の実用性について検証した。			
結果と今後	○衛星からの位置情報等による自動走行では、ぶどう棚面の枝葉や房により、位置情報の受信が不安定となり、指示したルートを正確に走行できなかった。 ○コントローラーを使った遠隔操作では、離れた位置から常に操作確認する必要があるものの、正確な走行が可能であった。 ○今回検証した農業用無人車は、車輪の回転だけで旋回するため、車輪が園地の土を掘り起こし、そのまま停止する傾向があり、注意を要することが判明した。 ○今後、作業時間やコスト等について慣行作業との比較を行い、より省力的で安全性の高い農薬散布技術の探索と普及を目指す。			
 左：農業用無人車（XAG R150） 中：スマホで自動走行を設定 右：コントローラーによる手動走行（直進は自動）				

標 題	南予地域最大のさといも産地で気候変動に対応した栽培講習会を開催		機関名	八幡浜支局産地戦略推進室
年月日	令和 8 年 7 月 8 日	場所	南予地方局大洲庁舎	
指導対象	さといも生産者（24 人）	連携機関	農林水産研究所	
普及指導内容	○大洲市は県内 4 番目、南予地域最大のさといも産地であるが、夏季の高温など気候変動の影響による単収の低迷が課題であるため、農林水産研究所より講師を招き、栽培講習会を開催した。 ○農水研より大洲市の主力品種である「女早生」「石川早生」や県内の主要品種である「愛媛農試 V2 号」の特徴のほか、気候変動に対応した栽培技術について解説があり、当室からは管内における現在の生育状況や今後の管理ポイントについて説明を行った。			
結果と今後	○生産者からは、「気候変動に対応した栽培方法への理解が深まった」との声や、大洲産さといものシェア拡大に対する期待感が伺われ、栽培意欲の高揚が図られた。 ○今後も農水研と連携し、大洲市に適した品種選定や栽培技術の確立に向け、継続して支援を行う。			



左：さといもの情報に耳を傾ける参加者

右：質問への回答を行う農水研職員

標 題	葉色スケールで「ひめの凜」の葉色診断		機関名	農産園芸課 高度普及推進グループ
年月日	令和8年7月17日	場所	愛媛県内各地	
指導対象	ひめの凜認定栽培者（2,000人）	連携機関	農林水産研究所 富士平工業株式会社	
普及指導内容	○近年、高温により水稻の基肥一発肥料の肥効が不安定となり、収量品質が低下することが問題となっている。 ○対策としては高温時の追肥が有効だが、食味を低下させないよう適期に適量の追肥を行う必要があり、その判断には葉色診断による稲の栄養状態の把握が不可欠である。 ○そこで、気候変動に適応した産地づくり総合対策事業を活用し、誰でも簡便に葉色診断できるように葉色スケールを作成した。 ○同スケールを用いて「ひめの凜」の認定栽培者に対し、葉色診断と高温時の追肥の重要性について指導を行った。			
結果と今後	○認定栽培者からは「葉色診断と高温時の追肥の重要性について再認識した」「自分で簡便に葉色診断できて助かる。品質向上に役立てたい」との声が聞かれた。 ○引き続き、「ひめの凜」の高品質安定生産に向け高温対策指導を行う。			
  左：高温による葉の黄化 右：葉色スケールによる簡便な葉色診断 スケールより葉の色が薄いため 追肥が必要				

標 題	第 1 回作物調査研究会を開催		機関名	農産園芸課 高度普及推進グループ
年月日	令和 8 年 7 月 22 日	場所	県農林水産研究所	
指導対象	作物調査研究会員、JA 愛媛食糧指導員（65 人）	連携機関	JA 全農えひめ、県農林水産研究所	
普及指導内容	○愛媛県と JA 全農えひめは、作物指導者の資質向上を目的に共同で研修を行っており、第 1 回作物調査研究会を開催した。 ○会では、水稻の直播栽培をテーマに県内の取り組みや試験研究の状況について研修を行ったほか、「ひめの凜」の生育状況や「にじのきらめき」の育苗等について情報共有。			
結果と今後	○参加者からは「直播栽培については、生産者の関心が高まっており、先行実例を学ぶことができて良かった」「今後の現場指導に役立てたい」との声が聞かれた。 ○今後も定期的に研究会を開催し、普及指導員の知識と技術力の向上を図っていく。			





左：水稻の直播栽培を学ぶ

右：ドローンで湛水直播した水田

標 題	第 1 回花き調査研究会を開催		機関名	農産園芸課 高度普及推進グループ
年月日	令和 8 年 7 月 14 日	場所	県農林水産研究所花き研究指導室	
指導対象	花き調査研究会員（23 人）	連携 機関	県農林水産研究所花き研究指導室	
普及指導 内容	○各地方局・支局から報告のあった「さくらひめ」の生産販売実績を共有し、収益性改善に向けた技術的課題や生産対策について協議した。 ○普及拠点からは、花木の新規品目の導入による周年供給体制の確立を目指した「戦略的有望花き生産技術等確立事業」の取組紹介があり、実証ほ場を視察して普及指導員の知見向上を図った。			
結果と 今後	○近年の夏季の高温により採花の遅れが生じ、高単価での出荷が困難となっている現状や、燃料価格の高騰により栽培コストが増大し、生産者の意欲が低下していることが課題として挙げられた。 ○今後は、関係機関と連携して「さくらひめ」の産地拡大や花木の新規品目導入に取り組み、生産課題の解決を目指す。			



事業の取組についての説明



現地ほ場視察での意見交換



現地ほ場

■■■ 情報の問合せ先一覧表 ■■■

機関名	所在地および連絡先
東予地方局農林水産振興部 農業振興課	西条市丹原町池田 1611 TEL:0898-68-7322 FAX:0898-68-3056
東予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 四国中央農業指導班	四国中央市中之庄町 1684-4 TEL:0896-23-2394 FAX:0896-24-3697
東予地方局農林水産振興部 今治支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	今治市旭町 1-4-9 TEL:0898-23-2570 FAX:0898-22-9724
東予地方局農林水産振興部 今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班	今治市伯方町木浦甲 4637-3 TEL:0897-72-2325 FAX:0897-72-1912
中予地方局農林水産振興部 農業振興課	松山市北持田町 132 TEL:089-909-8762 FAX:089-909-8395
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 久万高原農業指導班	上浮穴郡久万高原町久万 571-1 TEL:0892-21-0314 FAX:0892-21-2592
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 伊予農業指導班	伊予市市場 127-1 TEL:089-982-0477 FAX:089-983-2313
南予地方局農林水産振興部 農業振興課	宇和島市天神町 7-1 TEL:0895-22-5211 FAX:0895-22-1881
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 鬼北農業指導班	北宇和郡鬼北町興野々1880 TEL:0895-45-0037 FAX:0895-45-3152
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 愛南農業指導班	南宇和郡愛南町城辺甲 2420 TEL:0895-72-0149 FAX:0895-73-0319
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	八幡浜市北浜 1-3-37 TEL:0894-23-0163 FAX:0894-23-1853
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班	大洲市田口甲 425-1 TEL:0893-24-4125 FAX:0893-24-5284
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班	西予市宇和町卯之町 3-434 TEL:0894-62-0407 FAX:0894-62-5543